

2023 年度事業計画

特定非営利活動法人
フードバンクあったか元気便

(はじめに)

食品などの諸物価の値上がりは、「就学援助世帯」、とりわけ「母子家庭」のくらしと子育てを「直撃」するとともに、私たちの取り組みをも「直撃」する状況になっています。

こうしたなかで、23年度は松江市内の小・中学校に通う児童・生徒の過半数を超える学校に取り組みを広げるとともに、より多くの家庭と子どもたちに利用の輪をひろげることが求められています。そのために、地域の「支える輪づくり」と法人の安定した土台づくり、体力づくりをすすめることが大切です。

また、全県的な取り組みを視野に組織形態や食品確保、財源確保等の「ありよう」や「仕組み」について検討をすすめます。

○「食品応援」から「くらしと子育て応援」へ

1： フードバンクの「利用者アンケート結果」や「子どもの生活に関する実態調査」（島根県、2019年）を踏まえ、「くらしと子育て応援」へ取り組みを拡充します。

就学援助世帯の中学3年生を対象に「塾」の開設に向け取り組み「進路問題」を抱え子どもたちとおかあさんの「悩み」にも応えます。

引き続き小学生を対象とした長期休校期間の「お昼ごはん+学習応援」に取り組みます。また、田植え・稲刈りの「食育体験」、クリスマス会や夏休み野外企画など「体験の場」の充実で「体験格差」を抱えた子どもたちをサポートします。

こうした取り組みを学生ボランティアや地域団体など他団体と協同して取り組むとともに、中心的に支える学生ボランティアサークルとの交流や援助に取り組みます。

「子どもたちとゆっくり過ごせる時間」を提供する「おかあさんのためのレスパイト応援」の利用を広げます。

利用者相互の交流企画として「おやこの集い」（仮）を実行委員会形式で企画、開催を検討します。

○「普段着のまま交流できる『ひろば』づくり」をひろげます。

1： SMS の活用でスピーディーで暮らしに役立つ情報発信・交流をすすめます。とりわけ8割を超える「ひとり親」の「ささやき」「つぶやき」を寄せあえる「普段着の交流ネット」で「孤立」を防ぎます。あわせて、スポットでの食品提供の「日常化」と野菜や冷凍など多彩な食品提供で充実した応援の実現をめざします。

○「まちで出会えるフードバンク」をめざして広報を強めます。

1： 「支え合いの輪づくり」を広げるうえで「まちで出会える・話題にな

るフードバンク」の広報展開をすすめ「だれでも知ってる」「応援（参加）したくなる」支え合いの輪づくりの裾野を広げます。

「賛助・協カステッカー」や「応援自販機」、募金箱の更なる普及をはじめロゴマークを活かしたグッズなど、財政活動と一体となった多彩な発信媒体の開発にも取り組みます。

○市民参加の安定した自主財源確保をめざし「マンスリー募金」などの展開も

1： これまでの募金活動を基本にしつつ、「いつでも・だれでも・どこからでも」参加できる多様なスタイルの財源確保の取り組みをすすめます。

年間100万円を目標に「寄付金付き応援自動販売機」の30台設置に取り組みます。また、「マンスリー募金」の具体化をすすめるとともに、クラウドファンディング（県社会貢献基金目標100万円）、テーマ募金（共同募金会目標100万円）、募金箱100カ所設置に引き続き取り組み、安定した自主財源確保をすすめます。

2：企業が参加しやすい宣伝・広告を媒体とした寄付企画を検討します。

○全県的な展開も視野に「拠点」・「ハブ」機能の検討をすすめます。

1：農水省や「全国食支援活動協会」のしくみも活用し、全県的な展開を視野に他団体との連携のもと食品流通の「拠点」、「ハブ機能」の設置について検討します。

2：大型小売店でのフードボックス設置や会員団体の「単位組織」でのフードドライブやバザー企画などを広げるとともに、食品卸業などへの食品提供のよびかけを広げます。

3：フードバンクとっとり、フードバンクよなごなど近隣の団体との交流や連携の強化をすすめます。

○情報発信・交流の「場」として受取り会場の多点展開を図ります

1：地域のボランティアの参加も得て広域化した利用者の受け取り会場の多点配置を図り、利便性の向上と情報発信・交流の場としての活用を図ります。

2：「学び・成長できる組織」として、利用者・市民と一緒に「学び・交流」する場づくりを広げます。

○保管庫と作業スペースが一体となったあらたな施設の確保を急ぎます。

1：利用者の急増する中、プロジェクト答申を踏まえた施設の確保が急務になっています。既存施設の借用のみならず、あらたに借地に構造物を配置するなど一定の設備投資を含んだ施設確保も検討します。